

# 特別講義 不定詞の訳出のマスター(1)

## 1. カンタン不定詞見極め法

- (1) その不定詞が文中で「S(主語)」「O(目的語)」「C(補語)」のどれかになっていたら、その不定詞は「**～すること**」と訳せばいい。 [名詞用法]
- (2) その不定詞が直前の名詞を修飾していたら、「**～すべき**」「**～するための[よ  
うな]**」「**～する[できる]という**」と訳せばいい。 [形容詞用法]
- (3) それ以外の不定詞(いわば「その他型」)は、**70%は「目的(～するために)**か「**結果(して～  
等)**」だ。 [副詞用法]

②(2)に関して。直前に名詞があるからといってその不定詞が必ずしもその名詞を修飾しているとは限らないので、その点は注意。

## 2. 「結果」の不定詞とは

「結果」の不定詞とは、その不定詞部分を「**接続詞+S+V～**」で書き換えられるもののこと。

(ex) The man left the town never to return.  
=and he never returned

彼は町を離れ、そして二度と戻ってこなかった

## 3. 「感情の原因」を表す不定詞とは

- (1) 不定詞が感情の原因を表す場合、**不定詞の前に感情を表す語**(品詞としては「動詞」や「形容詞・分詞」)がある。
- (2) その場合、その不定詞部分は「**～して**」「**～できて**」と訳せばいい。

(ex) I'm glad to see you.  
(感情)

あなたに会うことができうれしいです

#### 4. 「判断の根拠」を表す不定詞とは

(1)不定詞が判断の根拠を表す場合、不定詞の前に人の性質・性格を表す語(品詞としては「名詞」や「形容詞・分詞」)やgood型・bad型の形容詞[分詞]などがある。

⚠要するに「判断を表す語」が不定詞の前にある！

(2)その場合、その不定詞部分は「～なんて」「～とは」と訳せばいい。

(ex) He was careless to say such a thing to her.

(性格)

彼女にそんなことを言うなんて彼は不注意だった

#### 5. 「条件」を表す不定詞とは

(1)不定詞が条件を表す場合、主節に推量の助動詞(will[would], may[might], can [could]等)があることが多い。

⚠逆に「強制力の強い助動詞」が主節のVなら、その不定詞句は「目的(～するために)」の可能性が高い。

(2)その場合、その不定詞部分は「もし～(なら)」と訳せばいい。

(ex) To say it carelessly, you may be misunderstood.

もし不注意にそんなことを言ったら、君は誤解されるかもしれないよ

## 特別講義 不定詞の訳出のマスター(2)

### 6.be to 構文

(1)be to構文か、単なる「SVC」かの見極め方は、be動詞をはさんで

①前後がイコール関係になる ⇒ 「SVC」

(ex) My dream is to be an actor. ☞ 「My dream = to be an actor」なのでSVCとわかる。  
私の夢は役者になることです

②前後がイコール関係にならない ⇒ be to構文

(ex) You are to come here on time. ☞ 「You ≠ to come」なのでbe to構文とわかる。  
君はここに時間通りにこなければならぬ

(2) be to構文は、助動詞の will, can, should[must] のどれかでたいてい言い換えることができる

☞要するに「Sは(客観的・外的状況によって)～する方向へと進んでいる  
[向かっている]」ということを表している。to は「→」とイメージする  
といい。

☞should[must]の意味になる可能性が最も高い。

(3) be to構文の表す意味。

①予定 「～する予定になっている」

これは助動詞の will と同じで未来を表す。したがって未来を表す副詞(句)と共に用いられることが多いのが特徴。

(ex) The concert is to begin at seven.

コンサートは7時に始まる予定になっています

②運命 「～する運命になっていた」

これは「予定」の be to が過去時制で用いられたもの。never とセットで用いられることも多い。その場合の訳し方は「決して～することはなかった」となる。

(ex) Mr. Brown was never to see his home town again.

ブラウンさんは二度と故郷を見ることはなかった

③可能 「～できる」

これは助動詞の can と意味は同じ。主に否定文で使われることが多く、「be動詞+to+be+p.p.～」という形になることも多い。

(ex) The ring was not to be found.

會p.p.は「過去分詞」のこと。

その指輪は見つからなかった

④意図(思) 「～するつもりだ」

たいてい if 節の中で用いられる。

(ex) If you are to succeed in anything, you have to make a good start.

どんなことでも成功するつもりなら、良いスタートを切らないといけない

⑤命令・義務 「～すべきだ」「～しなくてはならない」

これは助動詞の should, must と意味は同じ。実は be to 構文で一番多いのが「命令・義務」を表すもの。だから英文中で be to 構文に出くわし、なおかつ意味を特定する目ぼしいヒントが見当たらない場合、まず「命令・義務」で訳してみるといい。

(ex) You are to pay your debt as soon as possible.

借金はできるだけ早く返さなければいけない

## 特別講義 不定詞の訳出のマスター(3)

### 「他動詞 + $\frac{to\ do[\text{原形}]}{O} \sim$ 」型の訳出とその分析

1. 不定詞を目的語に取る動詞の意味は、基本的に「希望(～したい)」系、「意図(～するつもりだ)」系、「決心(～することに決める)」系の3タイプ。

不定詞の意味的な最大の特徴は、

- ①「未来志向」
- ②「積極性」

したがってそのような性格を持つ不定詞を後ろに(自身の目的語として)取る動詞は、(不定詞と同じように)未来に向かって何かをしようという、これまた「未来志向」「積極性」が感じられる動詞が多い(「類は友を呼ぶ」、同じ性格だから結びつこうとする)。その(つまり「未来志向」「積極性」型の動詞の)3大代表選手が「希望(～したい)」「意図(～するつもり)」「決心(～することに決める)」を表す動詞になる。

2. 「他動詞+to」を一種の助動詞ととらえる。

結論として、後ろに不定詞を目的語をとっている動詞の型(つまり「動詞+to V [原形]～」)を見つけたら、

他動詞 + to

部分は「希望」「意図」「決心」(といった「未来志向」「積極性」)のいずれかの意味をV[原形]～に付け加える、一種の助動詞だとみなすといい。

「助動詞」というとらえ方がまだしっくり来ない人は、以下の英文を見てほしい。

(ex) The meeting will be successful. その会議は成功するだろう

この英文中の助動詞 will は The meeting is successful(会議は成功する)に「確実にそうなるだろう」という一種の「予測・判断」を付け加える働きをしている。これ(上例の will)と同じように

(ex) He longed to return home. 彼はしきりに家に帰りたがった

この英文中の longed to は、He returns home(彼は家に帰る)に「しきりにそうしたかった」という「(主語の)希望」を付け加える働きをしている。  
また、

(ex) He attempted to settle the dispute. 彼はその争いを解決しようとした

この英文中の attempted to は、He settles the dispute(彼はその争いを解決する)に「しようとした[試みた]」という「(主語の)意図」を付け加える働きをしている。

このように、V[原形]~にある種の意味を付け加えるという点で、「他動詞+to」は、will, can, may といった助動詞とその働きが同じなのだ。

④ 実際 ought to(～すべきだ)、have to(～しなければならない・～するに違いない) used to(昔よく～したものだ)、be going to(～するだろう)等は、文法書でも助動詞として紹介されている。

### 3. 「他動詞+to do[原形]~」の中で注意したい表現。

○

ただし上記で紹介したもののうち、イディオム的なものや refuse to(～するのを拒む)、hesitate to(～するのをためらう)、fail to(～しない[できない])のような「拒絶・否定・不行動」を表すものには注意したい。

あるいは stop to do[原形]~(～するために立ち止まる)のように、不定詞が目的語以外で、ある動詞の直後に付く場合は、上記のルールはあてはまらない。

以下に「希望・意図・決心」の範疇に入らないものの具体例をあげておく。

- ① used to do[原形]~
  - 1. 「(昔)よく～したものだ」 [過去の習慣]
  - 2. [used to be] 「(昔)～だった」 [過去の状態] =was[were]
- ② have to do[原形]~ 「～しなければならない」 =must
- ③ ought to do[原形]~ 「～すべきだ」 =should
- ④ come[get] to do[原形]~ 「～するようになる」
- ⑤ happen[chance] to do[原形]~ 「たまたま～する」
- ⑥ tend to do[原形]~ 「～しがちだ」 「～する傾向にある」
- ⑦ fail to do[原形]~
  - 1. 「～しない」 =don't do[原形]~
  - 2. 「～できない」 =cannot do[原形]~

- ⑧ seem[appear] to do[原形]～ 「～するように見える[思われる]」
- ⑨ start[begin] to do[原形]～ 「～し始める」
- ⑩ learn to do[原形]～ 「～できるようになる」
- ⑪ manage to do[原形]～ 「(どうにか)～できる」
- ⑫ help (to) do[原形]～ 「～するのに役立つ」
- ⑬ continue to do[原形]～ 「～し続ける」 =continue doing～
- ⑭ cease to do[原形]～ 「～しなくなる」 =cease doing～

一種の助動詞とみなした方がいい不定詞表現の、その他のものをあげておこう。  
 中学英語の be able to do[原形]～などもこの仲間。

① 「be + 形容詞[分詞] + to do[原形]～」の形で決まり文句的に使うもの。

- (1) be anxious[eager/keen] to do[原形]～ 「～することを熱望している」
- (2) be ready[willing] to do[原形]～ 「よろこんで～する」
- (3) be sure[bound/certain] to do[原形]～ 「必ず～するだろう」
- (4) be apt[prone/liable] to do[原形]～ 「～しがちだ」
- (5) be likely to do[原形]～ 「～する可能性がある」  
 ☝ be unlikely to do[原形]～ は「～する可能性がない」。
- (6) be going to do[原形]～ 「～するつもりだ、～するだろう」
- (7) be supposed to do[原形]～
  - 1. 「～すると思われる」
  - 2. 「～することになっている」
  - 3. 「～すべきだ」
- (8) be designed to do[原形]～ 「～するように作られている」

② be to 構文。

※ be to 構文は、助動詞の will, can, should[must] のどれかでたいてい言い換えることができる一種の助動詞と、これも考えるといい(should[must]の意味になる可能性が最も高い)。

## 特別講義 不定詞の訳出のマスター(4)

### 「他動詞 + to do[原形] ~」型の訳出とその分析

4. シンプルで実戦的な品詞分解[構造分析]を心がける。

「他動詞+to」を助動詞ととらえるということは、品詞分解[構造分析]においても

He will solve the problem.

を

He will solve the problem. ☞ 「助動詞+do[原形]」をワンセットでVととらえる。  
S      V              O

と分析するのと同じように、

He tried to solve the problem.

という英文も

He tried to solve the problem.  
S      V              O              〈O〉 ☞ the problem は不定詞(to solve)の目的語。

というような分析の仕方をするのではなく、

He tried to solve the problem.  
S              V                      O

と(シンプルに)分析するようにしよう。

そして同じように、

This fund is designed to help refugees.

この資金は難民を援助するためのものです

He is likely to succeed.

彼は成功しそうだ

という英文も

This fund is designed to help refugees.  
S                      V                      O

He is likely to succeed.

S                      V

と(これもまたシンプルに)分析するようにしよう。